1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200033			
法人名	ゆたか福祉会			
事業所名	グループホーム宝南の家			
所在地	愛知県名古屋市南区元塩町3丁目1番地の1			
自己評価作成日	令和3年10月16日	評価結果市町村受理日	令和3年12月17日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyos_ voCd=2391200033-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
聞取り調査日 令和3年11月17日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても、安心してその方の暮らしの延長線上になれる居場所つくりに努めている。例えば、福祉施設で努めていて料理をしたり後片付けをすることを仕事として努めていた利用者様と一緒に台所にたって料理をしたり、元気な時は友人との散歩を毎日していたことを継続できる環境つくりをしたりしています。また、長く利用してくださっている利用者も多く、できる事が少なくなっても、5年前はおしゃれが好きだったことや、ウナギが好きだった等、昔話した会話を思い出して、今はどんな暮らしをしたいか、職員や家族と話し合い最善を尽くせるよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所

今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。

①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」②軽減要件確認票 ③目標達成計画

٧.	Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
	項目		項目	↓該	取り組みの成果 当するものに〇印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の ○ 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 〇 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が2. 利用者の2/3くらいが3. 利用者の1/3くらいが4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 〇 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が2. 利用者の2/3くらいが3. 利用者の1/3くらいが4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが				

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.Đ	里念に	- 基づく運営			
1		〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	事業所理念を事務所に掲示し、かみ砕いた内容をリビングに掲示している。月1回の職員会議などで理念の共有をし、管理者と職員は理念を意識した実践に努めている。		
2		流している	町内会の行事や、地域の消防団と避難訓練などで地域交流をしていたが、新型コロナウイルス感染予防対策で、全て中止や延期となり交流ができていない。5月の近隣の火災の際は、避難等で地域の協力があり地域力の高さを感じた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	毎月第4日曜日にホームが主催し地域の人が参加していたが、R2.2月より新型コロナウイルス感染予防のためお休みしている状態である。		
4	, ,	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	新型コロナウイルス感染予防の為、名古屋市に 相談し書面で開催となったが、ホームの出来事 や事業計画を報告し、委員からアンケートとして 意見を貰っている。		
5	(4)	〇市町村との連携 令和3年11月17日	運営推進会議では、オブザーバーとして参加依頼をし、事業運営の理解に努めている。		
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	見が上がった。今年度は「前向きになれる声かけ		
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で の虐待が見過ごされることがないよう注意を払 い、防止に努めている	虐待防止委員会の発足、指針の作成、職員への研修の取り組みを行い、高齢者虐待防止に努める。また、不適切ケアや、グレーゾーンと言われる部分の早期発見により、虐待に進行しないような取り組みを行っている。		

自	外	** 0	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	成年後見制度を利用されている利用者様がみえる。今後は、職員への学ぶ機会を設ける事が課 題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	一方的な説明にならないよう、理解・納得を得られているか確認しながら、契約の締結等を行えるよう努めている。		
		に反映させている	意見箱を設置し、意見があれば記入できるようにしている。実際は、利用者や家族等から、職員へ直接ご意見をくださることが多く、職員会議等の議題にしたりし、運営に反映できるよう努めている。		
11	(7)	〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や、普段の何気ない会話の中から、職員の意見や提案を聞き、次回の職員会議等の議題にあげて検討し反映できるよう取り組んでいる。		
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	毎年、自己申告アンケートを行っており働きやすさややりがい等の申告をうけている。また、お互いが働きやすい場となるような環境・条件の設備に努めている。		
13		の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	法人研修で新所長研修に管理者は今年参加している。また、認知症実践者研修に希望者に事業所負担で参加してもらった。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	新型コロナウイルスの関係で、難しくなった現状である。今後は、以前のように交流できる場を検討していく。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	西
己			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.3	と心な	:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と、今の本人の生活やどんな人柄で、好きだったことなど聞き取りをしながら、ご要望を傾聴し、表情や仕草を観察しながら大切にしていることを考え、ホームでも続けられるよう努めている。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居前に、困っていることや不安なことを聞き取り、ホームでの暮らしでの参考にしている。また、お互いに相談しながら一緒に支援できるような取り組みを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が必要としている内容を把握できるよう、事前の聞き取りや情報等で努めていけた らと考えている。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	目指しているが、常に維持することの難しさを感じている。まずは、一緒に料理できるような取り 組みから始めている。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	感染対策を行いながら、出来る限り面会や散歩・ お墓参り等家族との時間を大切に過ごせるよう に努めている。		
20		〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から続けていた友人との散歩で、馴染みの場所を歩いたり、伊勢湾台風で親しい人とお別れをし供養のため、くつ塚公園へお参りを一緒に行くなどの支援に努めている。		
21		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	ー緒にソファーに座って洗濯物を畳みながらおしゃべりしたり、同世代の利用者様とYouTubeで懐メロを見たりして思い出話をしたりして、利用者同士が関わり合える支援に努めている。		

自	外	D	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		〇関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ゆたかめカフェを再開する時は、手伝いに来てくださっていたご家族様に連絡をしてみたいと考えている。また、今後も関係性を断ち切らず、相談や支援ができる環境つくりに努めたいと思う。		
Ш.		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	F		
23	(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	長く住んでいる方々の高齢化・重度化が進む中、 長く勤めている職員を中心に本人が好きだった ウナギを誕生日に提供したり、ケース会議を利用 して検討している。		
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	日頃の会話の中から、実家が有松絞や桶屋を やっていた話や、食堂で働いていて食事を提供 していたことなど把握に努めている。		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	ケース会議を月に1回開催したり、一人ひとりと 毎日接するなかで、いつもと違う等の変化にも敏 感に把握できるよう、毎朝の申し送り等も利用し ている。		
26	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	計画作成担当者が、ケース会議に参加し、一緒にモニタリングを行っている。また、家族と面会や電話時に現状報告をしながら、意見を反映しながら計画作成に努めている。		
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや個人記録、業務日誌を活用し、職員 間で情報共有できるよう努めている。また、職員 間の情報をケース会議にて検討し介護計画の見 直しに活かしている。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルスの関係で、様々な活動が制限される中で、季節感を味わって頂けるよう一緒におはぎを作ったり、職員の用事でかけた電話後に、利用者とかわり緊急事態宣言中で会えない家族の声を忘れないよう努めたりした。		

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急事態宣言中は仲の良い方との散歩を自粛していたが、職員と散歩に行き、地域の知人と道端であって挨拶を交わしたりすることで、馴染みある地域暮らす安心感を支援できるよう努めている。		
30	, ,	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	さない認知症の専門医や霊形が内、皮膚科寺の		
31		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	24時間連絡体制の訪問看護ステーションと連携 し、利用者の体調について相談している。また、 訪問看護ステーションから担当医への伝達によ り、医療介入へ繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院時に、医療や生活の情報提供のため介護 サマリーを作成し、必要に応じて病棟看護師と情 報交換をしている。また、入院中の情報提供をも らい、退院後に不安なく生活を送れるよう関係作 りに努めている。		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	担当者会議を用いて、現状の本人と家族の望む 暮らしを把握し、事業所のできる・できないをしっ かり説明できるよう取り組んでいる。また、担当 医とも連携を取りお互いにチームとして取り組め るよう努める。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	地域の消防団の協力のもと応急処置や急変時の対応についての講習を受けている。また、目につきやすい場所に緊急時の対応について掲示したり、研修を行ったりしている。		
35		〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	5月の近隣の火災の際は、地域の協力のもと全員無事に非難することができたが、日頃より訓練の大切さを痛感した。訓練をいかに身につくものにすることが課題である。		

自	外	-= D	自己評価	外部評価	ш
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.	その				
36		〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念の人権尊重について意見交換するとともに、身体拘束廃止委員会で、職員同士が疑問 に感じた言葉かけについて検討し、改善できるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	何気ない会話の中で、本人の思いや希望を伺ったり、本人が自己決定できる声かけをするよう働きかけている。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合の時間配分ではなく、一人一人のペースを優先し有意義な1日を暮らせるよう、職員の「〇〇する時間」という概念を改善できるような取り組みを行っている。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	毎日、お化粧をすることが日課な利用者様へ声をかけたり、朝の服選びを一緒にしたりしている。また、定期的な理美容を行っている。		
40		〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	誕生日に好きな物を提供したり、季節に合わせたお菓子つくりをして食の楽しみに努めている。また、一緒に台所に立ったり、一人ひとりにあった準備や片付けの声かけを行い活躍できる場つくりを行っている。		
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に 応じた支援をしている	食事は栄養バランスを考えて考えている。食事 形態も刻んだりトロミをつけたり、食べやすく提供 している。水分が苦手な方への水分摂取量の確 保が課題である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎日毎食後、口腔ケアの声かけや支援を行っている。また、義歯は毎晩消毒をしている。必要な方は、定期的に歯科・歯科衛生士による、口腔ケアを行い、口腔衛生に努めている。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	ш
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	過半数が排泄介助が必要な方である。チェックリストを使用し、排泄のパターンの把握に努め、失 敗の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトの提供し腸内細菌改善に努めている。また、水分をしっかりとれるよう声をかけている。元々便秘症の方については、医師の処方薬を用いている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表から、1週間の入浴チェック表に変え、本人の体調や希望、タイミングに合わせて入浴できる支援方法に改善した。		
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	一人ひとりの睡眠リズムに合わせて、必要に応じ日中にも休息支援を行っている。また、明るさや 室温にも気をつけ、安眠できるよう取り組んでい る。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬の変更事項があれば、事務所の目につく場所 に貼り、情報を共有できるよう努めている。また、 処方箋を確認しながら、薬の準備をするようにし ている。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルスの影響でなかなか行えなかったが、誕生日に好きな食べ物を提供したり、毎日の日課の散歩を感染対策をしながら継続したり、懐かしい音楽を一緒に歌ったりして気分転換を支援している。		
49	(18)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お盆に墓参りにご家族様と一緒に出掛けられた。また、カニが好きな利用者は、新型コロナウイルスの感染が収束したら、家族団らんでカニを食べに行く予定をご家族様がたてている。		

白	外		自己評価	外部評価	
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所 持したり使えるように支援している	ほとんど職員がお金の管理をしている。新型コロナウイルスの為、買い物は職員が代行している。 月末の金額確認を一緒にできる利用者は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者の横で、一緒に操作し電話の支援を行っている。また、職員の用事が済んだ後、利用者と変わり家族との会話を楽しんでいただけるようにした。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるような飾りつけをしたり、車椅子の方が増えたので動きやすい空間つくりに努めている。		
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	共用空間にソファを配置し、ソファにて居眠りをしたり、仲のいい利用者同士で会話を楽しんだりできるよう席を工夫したりしている。		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	馴染みのあるものを持ってきていただき、家にいたときのような感覚を感じていただけるような居室つくりを本人や家族に協力しながら工夫に努めている。		
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	キッチンの引き出しに写真を貼り、しまう場所を 忘れてしまった時にわかりやすくしている。また、 手すりの設置し、自分で安全に移動できるよう努 めている。		